

# コロナ禍のがん医療について、滋賀県のがん患者の声、 がん医療に関する県民、関係者の声アンケート

滋賀がん患者力.com (<https://www.cancer-patients.shiga.jp/>) にて実施

集計期間：2021/08/01～2021/10/16

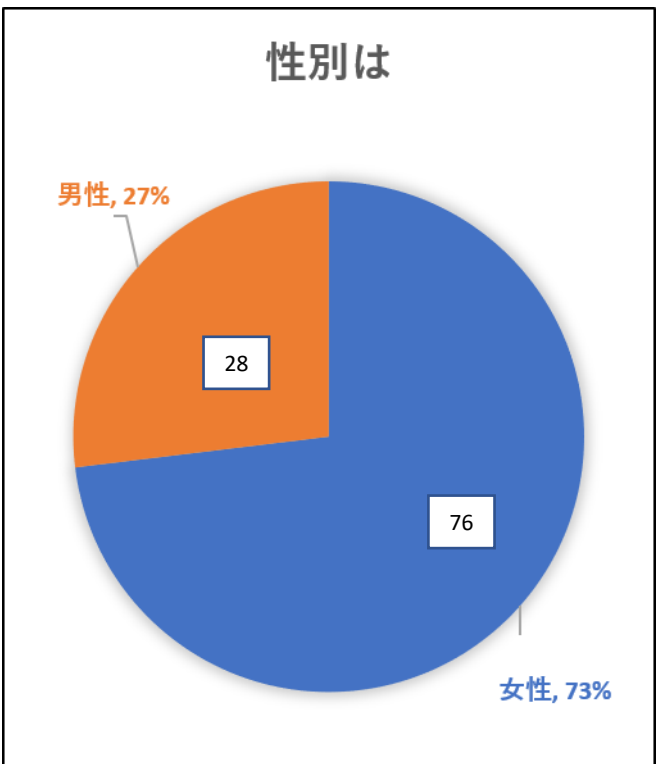
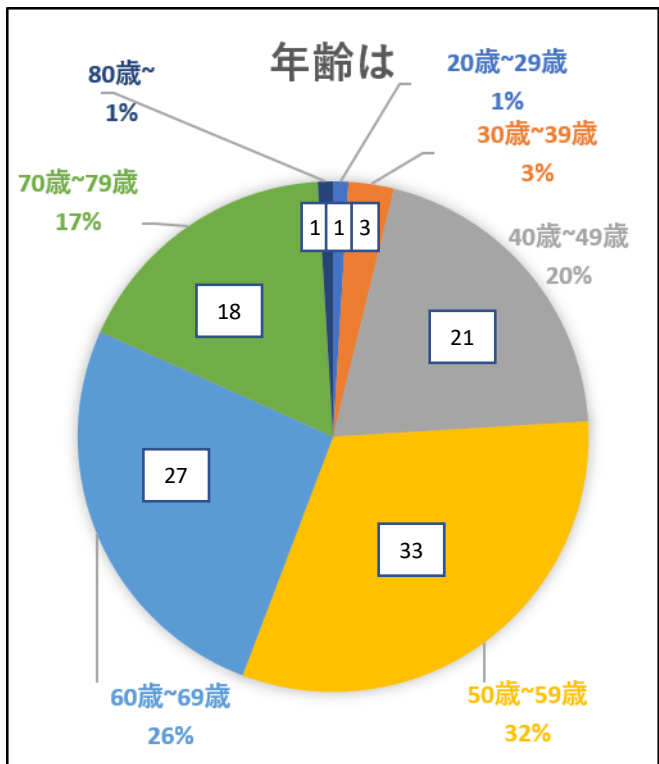
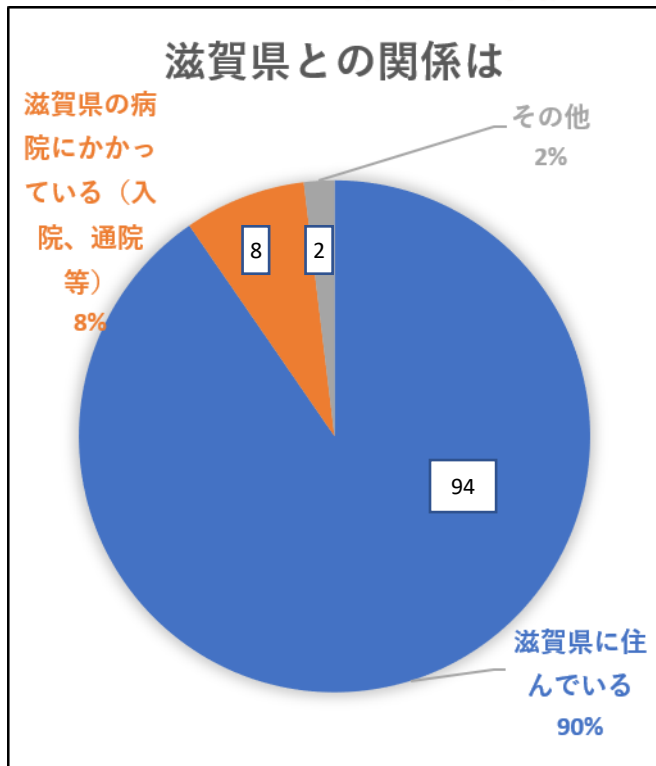
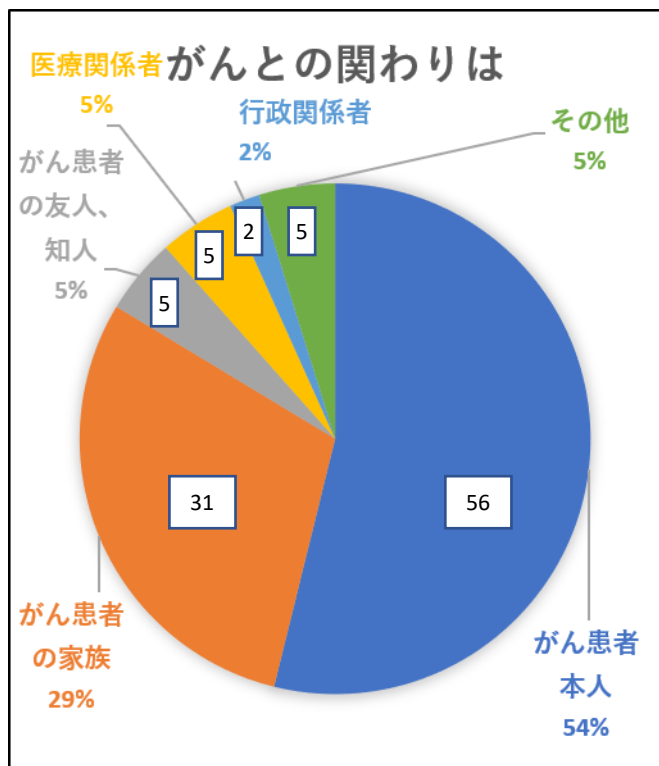
回答数：104件



滋賀県がん患者団体連絡協議会

URL: <https://www.cancer-patients.shiga.jp/>

Mail: [office@cancer-patients.shiga.jp](mailto:office@cancer-patients.shiga.jp)



経過観察中です。たまの診察ですが、病院は大変だったと聞きました。感謝を伝えたいです。昨年今年と、患者さんは治療が十分にできているのでしょうか。今も診断される方あると思うと、どれだけ不安だろうかと推察します。とにかく感染しないさせないことで協力の毎日です。

1.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 60歳代 女性

小児がんを患う子どもを看病する親です。コロナで入院付添も一人に制限され、感染の恐怖の中での看病を余儀なくされています。コロナワクチン接種や他の補助制度に関しても、滋賀県は他の都道府県よりかなり遅れています。他府県なら使える制度が滋賀県民は使えないのが沢山あります。看病する保護者は優先接種は出来ず、年齢も若い為、予約がまだまだ出来ません。接種券が送られてきたから、年齢の順番を無視して予約して接種するような心無い人。職域接種で早く接種できる人がいます。接種人が置き去りになっています。そういう人は人の痛みが分かるから、きちんと順番を守ります。理不尽です。

2.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 30歳代 女性

行動半径がせばまった、他人とのふれあいが少なくなった

3.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 70歳代 男性

面会が制限されて居るので、不安が在る。

4.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 70歳代 女性

ピアサポをさせていただいています。長い期間サロンが開催出来ず、患者さんの方々にお会い出来ず心配しています。病院を通じて患者の皆さんに心配事や悩みについて、調査して頂けないでしょうか。その結果により対応策を考えて行きましょう。

5.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 70歳代 男性

**病院にも行きづらかったり、がん患者サロンも開催出来ず、人と話す機会が極端に減ってしまい、ストレスを内に溜め込みやすくなった。**

6.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

**がんの病状が、急激に悪化してしまった親族に、コロナ禍の影響で病院での面会が制限され、面会も出来ず、最期のお別れもできなかったことが、1番悲しかった。コロナ禍ではあったが、通常に予約通り診察をしてもらったのは、ありがたかった。**

7.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 30歳代 女性

**がんサロンで皆んなと集えないので、寂しいです。**

8.がん患者であり、医療関係者であり、ピアサポーター 滋賀県に在住、  
県内の病院に通院中 50歳代 女性

**皆とお会いできないこと、悲しいです。**

9.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 70歳代 女性

**コロナ禍で中々、皆さんに逢えないし、活動も出来ない状況で、何とか、サロンが開けないものかと、考えます。**

10.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

**昨年の事ですうがいがい薬がいつもの本数 出してもらえなくなり【3が1本】困った。**

11.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 60歳代 女性

**いつもどうりの検査が受けられて感謝していますが、やはり病院へ行くのが怖いです。**

13.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 60歳代 女性

2019年12月～2020年7月、2020年7月～2020年9月、2020年11月～2020年12月と入退院を繰り返しました。2020年2月中旬頃に敗血症、多臓器障害、腸瘻再発などで血圧低下、呼吸困難になり、人工呼吸器をつける事になりました。（危篤状態に陥っていました。）その際、医療従事者の皆様方のお力で人工呼吸器を脱出して元通りに元気になりました。医療従事者の皆様に心から感謝いたしたいと思います。新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大した際に医療従事者の皆様より基礎疾患を持っている私の事を気遣ってくださって『早くワクチン接種できると良いね。』気遣ってくださった事に嬉しく存じます。新型コロナウイルス（COVID-19）ワクチン接種を早く受けようと大阪の大規模会場で6月と7月にワクチン接種を二回受けてきました。お陰様で一安心かなと言う気持ちですが、外出時は二重マスク着用、フェイスシールド着用を忘れずに、毎日検温測定とパルスオキシメーター測定それに血圧測定をして自己管理をして感染予防をしています。週4回点滴に病院に通院をしなければならぬ状態ですが、足腰の筋力の低下防止の為、ウォーキングを続けて、新型コロナウイルス（COVID-19）前と同じくらい、感染対策をしっかりして不要不急の外出を避けて体力維持と体重維持をするようにしております。病院に通院すると、医療従事者の皆様が心配してくださり、2021年今年入院せず、元気な事を喜んでくださっていますし、声をかけて下さったりして、元気をもらって病気に負けないで頑張れる事にありがたく思っています。

12.がん患者本人 滋賀県の病院にかかっている（入院、通院等） 60歳代 男性

まずは医療従事者の方、その他様々分野でご活躍されている方に感謝申し上げます。やはり、人と会う事が難しくなったのが何より残念な事でした。実家への帰省なども控えざるを得ない日々が続いています。特に大きな変化もなく暮らせている事は、そうではない方が大勢いらっしゃる事を思えば有り難い事です。今はまだ辛抱の時と心得て過ごしております。

14.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 40歳代 女性

乳がんで、大阪で再建手術をしました。インプラントを入れてのマンモグラフィは工夫が必要とのことで半年に一度ほど、再建手術をしたクリニックで受けています。コロナ禍で県をまたいでの移動が困難となり、さてどうしたものかと迷っています。

15.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性



**コロナ禍でもいつもどおりに通院できてます有り難く思ってます。**

16.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 60歳代 女性

**コロナ禍の中、病院へは、毎月抗がん剤を受けに行っております。不安が無い訳ではありませんが、主治医の先生をはじめ、看護師さんや薬剤師さんのいつもと変わらない姿勢に勇気付けられ、毎月通院しています。感謝しかありません有難うございます。**

17.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

**昨年、コロナ感染者増えた時、病院に電話して、薬局に処方箋を送信して貰って、病院受診を先送りして貰えた。手術を受けた時も、病院のドクター、看護師さん、感染防止の眼鏡と消毒薬腰にぶら下げ一生懸命働いておられ、安心感があった😊**

18.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 60歳代 女性

**集まることができないこと。**

19.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

**コロナ禍になり、治療の面でリンパマッサージを受けられず、自分でできることで対処しています。でも、なかなかうまくできず、これで良いのか迷いながらやっています。**

20.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 60歳代 女性

ピアサロンが開催出来ず、また、ピアサポーター仲間とも交流が途絶えて情報がなく、とても残念です。

21.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 70歳代 女性

今は病気がおちついてます。昨年、女優岡江久美子さんが乳ガン放射線治療中コロナに罹って亡くなったニュースにはビックリ哀しかったです❀夫の大和田獏さんが「悔しくて悔しくて今でも信じられなくて」の言葉が印象深いです❀過去を振り返り、原因はあれだろか、これだろかと考えたことだと思いません❀うちでもそうでした。

22.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 70歳代 男性

コロナ禍の生活がこんなに長引くとは思いませんでした。ピアサポートの活動も出来ず、私自身病気発生から40年近くたち、病状に関する不安はないのですが、現在病気と闘っている方はとても不安な気持ちで一杯だと思います。日常生活が戻る事を切に願っています。

23.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 60歳代 女性

患者サロンが、お休みになって、皆さんと会って話せる場所がなくなって、寂しいです☹

24.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 60歳代 女性

なかなか皆さんとお会い出来なくてさみしいですね。サロンに来て下さっていた方もお話しが出来なくて辛いと言われておられました。早く再開出来るといいですね

25.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 60歳代 女性

友達がコロナで入院しました。後怖くて皆に会えません、濃厚接触者になると色々大変でした。

26.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 70歳代 女性

コロナ禍で会いたい人に会えないことがやはり一番悲しいことで、今も続いているわけですがオンラインのお陰で家族だけではなく遠く離れた友人たちとも以前よりも身近に感じられるようになったことが嬉しい。

27.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

対面で話合いができないのが残念です。スマホなど機器の操作は慣れないと難しい。

28.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 70歳代 男性

県外の病院に通っていますが、電車等での感染が怖くてこの1年半ほどまともに通えてません。電話での診察で薬を処方していただき、近くの薬局で受け取って過ごしています。ワクチン接種をすれば大丈夫かと思えば、ブレイクスルーで感染する場合も増えており、どうしたものかと悩んでいます。近所には専門医がおらずどうしようもありません。また、滋賀県では情報が少なくPCR検査もどこで受けることができるのか教えてほしいと思います。ありがたいのは医療関係者の方が本当に頑張っておられることです。

29.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 60歳代 女性

今は治療後のフォローに通院しています。予約に応じて病院に行くのでコロナのことを考えて緊張はしますが、特に問題は感じません。しかし治療の結果生じた障害の相談には、コロナの件を考えると、やはり敷居が高く見合わせている状況です。

30.がん患者本人 滋賀県の病院にかかっている（入院、通院等） 70歳代 男性

喉が痛いというだけで新型コロナウイルス感染症に感染したのかと家に籠ったりしました。癌が見つかった時は家族や友人たちのお陰で落ち着いていられたのに、自称コロナ疑いの時はなぜ私がとかどこでうつされたのかとか考えてばかりいました。ピアサポーターの研修があったのでステージ4の癌患者さんにうつしていたら…そのせいでその人が死んじゃったらどうしよう、入院することになって家族と会えなくなったらどうしようと悩みました。こんな愚痴を周りにも吐露していたので聞いてくださった方に感謝しています。ありがとうございます。

31.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

一週間に10キロの歩行運動をコロナ禍の前にはしていたが、現代は外に出るのが怖くて、今体重が4キロ増えて困っている、早くコロナが終息してほしい。

32.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 70歳代 男性

入院中に面会ができなかったこと。どんな状態なのか、先生方が教えて下さったものの、顔を見て知ることができないのは辛かったです。

33.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 50歳代 男性

がん患者さんの御家族さんから話を伺ったりしたいが、コロナ禍なのでなかなか話をすることができないこと。

34.医療関係者 滋賀県に住んでいる 40歳代 女性

制限の多い生活は残念です。

35.行政関係者 県外 40歳代 女性

人どのつながりが減ったことが悲しい。

36.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 40歳代 女性



**コロナワクチンについて。主治医から打つ方が良いと言われ、患者本人(12歳)家族共に悩まず接種できました。無駄に悩まずにすみ良かったです。**

37.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 40歳代 女性

**抗がん剤治療をしていたので、免疫力が低下しているのに、病院に行くのが怖かった。**

38.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 40歳代 女性

**ちょっとした不調では病院に行きにくくなった。**

39.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 40歳代 女性

**ちょうど一年前に体調を崩した友人わ、今までと違う体の異変に戸惑い病院を受診しました。何と！体中にガンが見つかったのです。的中して東京の病院に娘さんの家～通いもう一年。夏にわ帰る予定が滋賀に帰る事わないと返事が来ました。食事会をしましょうね🎵が叶わなくなり悲しいです。辛い痛みを取り除き普通の生活になってほしいです。**

40.肝臓友の会 滋賀県に住んでいる 60歳代 女性

**コロナ感染の不安。家族も頻繁に会えない。孤独にならず、みんな気にしてくれてありがとう。**

41.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

**術後より仕事を休業しており体調が回復して、いざ職場復帰の予定でしたが、コロナ禍で2度のワクチン接種終了後の職場復帰になりました。思っていたより、2ヶ月も遅れて社会復帰だったので、金銭面でもかなり困難でした。**

42.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

入院中に家族の面会が制限されていることがとても辛いだらうと思いました。

43.医療関係者 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

今年の春にがんの診断があり手術までの間、コロナ対応とかで入院手術が速やかに行われなかったと思う。1ヶ月半以上待ちとなり、本来早期がんと言うことですぐ手術で済むところが実際は少し進行していた。悲しかったし残念だった。コロナ禍でクラスター対策で面会も制約があり難しくて、家族と会いにくかったのも同様。ただドクターや看護師さん初め皆さんが制約のある中で一生懸命支援してくださったのは有難かった。

44.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

90歳代の両親に相次いで肺癌の告知を担当医より受けました。特に父親は、肺癌が脳に転位し先日そのイベントと思われる全身の痙攣が襲い救急搬送され、現在緩和ケア病棟で過ごしています。コロナ禍の中で、家族との面会もままならない状況ですが、これも宿命と受け止め日々を過ごしています。

45.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 60歳代 男性

入院したら、面会もできないことから、癌末期、自宅に連れ帰って最期まで見る、看取る決心ができた。一人では、死なせない。家で最後を迎えるためになんでもすると、腹を括れました。

46.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

コロナ感染者の治療で、癌患者の治療が制約を受けるには無いか心配しましたが幸い影響は無く良く治療して頂き感謝しております。(大津日赤)。幸い癌は早期発見で寛解致しました。

47.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 80歳以上 男性

**先日、叔母はがんで亡くなりましたが、コロナ禍で面会ができない中、末期がんだったので、病院が面会を許可してくれて亡くなる当日は、ずっと病室に付き添うことができ良かったです。**

48.叔母ががん患者 滋賀県に住んでいる 40歳代 女性

**コロナ禍中での手術治療の病院入院中でもあり、病院システムにもよるのですが、病棟内のみでの移動制限等があり、面会制限がある中で日々の病気養生に対する気持ちが萎えることには、忙しい中での看護師さんの心温まる配慮があり有り難かった。今は退院して普段の生活をしています。**

49.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 70歳代 男性

**コロナ禍で手術の制限がある中で、主治医の判断で手術の予定が早まり、無事に終わられたので感謝しています**

50.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 40歳代 女性

51.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 70歳代 男性

**入院時、コロナ禍で家族面会も出来ず非常に心細かった。**

52.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 70歳代 男性

**面会がなかなか出来ない。**

53.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性



基礎疾患の者には、ワクチンの優先順位が早かったので安心して繋がった。感染者や医療従事者を差別する気持ちは全くないのですが、自分が感染した場合の重症化リスクを考えると、感染の可能性があるかも知れない人との接触は避けたいのも事実で、それが差別なのか悩みました。

54.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

困ったこと：コロナ禍になってすぐ、服薬中止になった薬があった。コロナ患者さんに使うためだそう。また、コロナ前、定期的に行われていた検査(再発や転移、薬の副作用を調べるためのもの)が、コロナ禍となり、なかなかやってもらえない。新型コロナのワクチン接種を受けに行った際、問診ならいざ知らず、まさかの予診前の段階で、医療従事者でもない事務スタッフの人に悪性腫瘍の説明をしなければならなかったのが苦痛だった。接種希望者がいっぱい並んでいたのに。接種会場にはプライバシー保護なんて存在しなかった。コロナ禍で良いことなんて何ひとつない。コロナ前、「何かあったら、すぐ救急車を呼んで」と病院から言われていたが、今、そんなことになったら、どうなるだろうかと不安でしかない。

55.がん患者本人 滋賀県の病院にかかっている（入院、通院等） 50歳代 女性

特になし。

56.行政関係者 滋賀県に住んでいる 30歳代 女性

悲しかったこと 9月末に腎癌で総合病院で手術をしたのですが、コロナ禍で家族の面会もままならず、本人の不安な気持ちに寄り添う事ができなかった。会えない事で自宅で待つ家族も心配が大きくなると感じました。どんな病気も医療者との関わりが大切だと思います。コロナ禍だからこそ今までよりも本人の納得できる説明が必要なのではと思います。

57.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性



初めての入院が、癌の手術によるものでした。コロナ禍で、自身の病状の不安もあり、気分が落ち込む中、看護師さんの言葉に支えられました。病室では、それぞれのベットをカーテンで仕切られ、プライバシーが守られていましたが、狭い閉鎖的な空間で気分が滅入りました。また、認知症のような方の対応をされている看護師さんの声が聞こえてきて、看護師さんの仕事の大変さを痛感しました。頭が下がります。今は元気になりましたが、今も感謝の気持ちでいっぱいです。早くコロナが終息することをいっています。医療関係者の皆様、ありがとうございます。

58.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 60歳代 女性

マスク頭痛が頻繁している。

60.医療関係者 滋賀県に住んでいる 50歳代 男性

癌患者よりコロナ患者が優先だという声を耳にした時は少し落胆しました。コロナには感染しないようにといろんな方から言われ外出は控え巣籠もり状態は厳しかった。

61.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 60歳代 男性

入院しても、誰にも面会に来てもらえず寂しかった。

62.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 60歳代 女性

コロナ禍に何回も通院し、手術、入院はたいへんだったそうです。常にコロナ感染のリスクを背負いながら、ビクビクして病院へ通ったとのこと。コロナワクチンも退院後しか接種できず、ようやく、受けられたそうです。手術や入院中も家族の面会はできなく、寂しく不安な日々を過ごしたそうです。医師との面談はしっかりできていたそうです。

63.がん患者の友人、知人 愛知県 40歳代 女性

2019年8月29日 私が右頬粘膜癌の手術をした日です。9時前に手術室に入り麻酔から覚めたのは実に10時間40分後の20時40分でした。集中治療室で主治医の先生に起こされ目覚めた私は家内や娘二人、義母、義弟と面談しました。それから、長い長い夜を迎えました。一睡も出来ないまま担当看護師さんに5分おき？にナースコール？多分今思えば「ええ加減にしろ」と思われていただろうと思います。でも、一言も文句を言わず付き合っただ下さった看護師さん本当に感謝です！その後朝を迎え一般病棟に移動しました。そこでも若い担当看護師さんは一緒に頑張りましょうと励まして下さいました。歩く事が退院の早道ですと肩を貸して下さいました。歩かされたであろう私を支えて歩かして下さいました。そのおかげでは当初3週間と言われていた入院期間を2週間で退院させて頂きました。感謝です。その他、家内には毎日病院に来てくれて世話をしてくれました。感謝です。今年3月。主治医の先生が異動になりました。本当にお世話になり涙が出ました。命の恩人ですと伝えると先生も少し涙目になっておられた様に見えました。今、私がこうして生きて居られるのは私に関わって下さった方々のお陰だと感謝しかありません。本当に「ありがとうございます」と言う言葉を捧げたいと思います。まだまだ解離までは時間がかかりそうですがこれからも宜しく頼みます。

59.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 70歳代 男性

定期的に通院する必要があるが、感染が心配で通院をしたくない時もあった。通院先の感染対策なども気になった。

64.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 60歳代 女性

コロナにかかったら重症化して死ぬのではないかと不安がいつもあります。収入減少により治療費の負担が大きくなり本当に大変です。

65.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 40歳代 女性

外国人の友人がガンになっていますが、ドナーが国内に見つからず、ドナー候補の家族が来日できるまでに相当の時間と費用がかかりました。コロナがなければもっと早く簡単に治療ができたのに、大変な思いをされているのを間近に見ています。ただ、逆にドナー候補という人道的な理由で特別にビザを出してもらうことができ、家族が再開できたことに喜びもひとしおの様子を見て、良い面もあると感じました。

66.がん患者の友人、知人 滋賀県に住んでいる 40歳代 女性

入院中 家族と会えなかった コロナで見舞い客も来れず 喋れなかった  
ので 精神的に参った

67.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

入院中、面会出来ず家族も本人も辛かった

68.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 40歳代 女性

末期癌の骨転移して背骨も溶けましたが、抗がん剤で今いかされています  
けど、喉の違和感ど血が出たのですが医者に行けません。

69.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 60歳代 女性

コロナ禍の中で、当初は治療拒否か延期を心配したが、診断や検査は問題  
なく進めていただき、且つ手術も勧められ安心出来た。

70.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 70歳代 男性

## コロナ禍で家族が入院しても面会に行けなく悲しかった。

71.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 30歳代 女性

看護師です。コロナ病棟ではないが、面会の制限によって、ターミナルの患者にたくさんの面会者が来れなくなった。家族のみ、時間制限あり、の寂しい見取りが増えた。私なら友人にもあいたいし、子供や孫にもずっと会っていたい。オンラインで繋いでください、と家族さんは言うが、ほとんどの病院はWi-Fiない上、高齢者にはLINEすら使いこなせない。術後や、ターミナル期は、痛みや倦怠感でスマホも使えない。がん患者の医療処置(胃ろう、腸ろう、在宅点滴、ストマ、麻薬…など)持ち帰り、病院から在宅へ戻るときは、積極的に家族に指導を行うため来院を促すので、タイミングの遅さは感じない。本人、家族が希望すれば、地域医療のサポートで積極的に在宅へ帰れます。緩和病院に転院する場合は、転院先のコロナ感染、受け入れ閉鎖などで転院できないことも多かったです。

72.医療関係者 滋賀県に住んでいる 40歳代 女性

入院中、面会も出来ず悲しかった。家族はまだ元気なので気持ちの上で、何とか踏ん張ること出来るでしょうけど入院してる本人は、1日一回家族の姿、声聞くことで少しでも気持ちが安らぐのに辛かったでしょう。

73.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 60歳代 女性

入院しても何よりも家族の看護が一番なのにコロナ禍で面会もままならない状況が悲しかった。

74.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性



ガン治療で父が入院しています。骨転移が全身にあり、治療方法もなく緩和ケアのみで痛み止（麻薬）を毎日大量に使い命をつないでいます。コロナの影響により、家族ですら患者本人に面会もすることが出来ず洗濯物などの着替えを看護師さんに渡すのみ。入院生活の様子を聞けるでもなく、テレビがある憩いの場で顔みることすらできません。患者自身の食事も部屋で無言で食べておわり。看護師さん達との世間話しすらなく看護師業務を淡々とこなし、足早に部屋を出るとのこと。ターミナルを迎え、命ある限り人生を全うしようとしているのに日々、痛み、病と戦いながら身も心も壊れている患者自身にしたら、孤独と喪失感、寂しくみじめなことはない悲しい毎日。コロナが憎い

75.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 40歳代 女性

### コロナ禍でも通院しなければならない

76.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

### コロナが原因ではないが、近親者が亡くなり、悲しかった。

77.がん患者本人 滋賀県の病院にかかっている（入院、通院等） 40歳代 女性

### 発熱で容態急変でも、入院に手間取った。なかなか入院許可が出なかった!!

78.がん患者の友人、知人 滋賀県に住んでいる 60歳代 男性

### ワクチン接種が受けられないために接触に気を使う

80.がん患者の友人、知人 滋賀県に住んでいる 50歳代 男性

昨年5月に乳がんが判明した。4月初旬に「がんかもしれない」と思ったが、コロナ禍の中行くのが憚られた。しかも4月下旬にコロナの濃厚接触者となり、自宅待機となった。その間に、自分でも分かる程がんが大きくなってしまった。コロナ感染はなかったが、増殖率が高いタイプだったので、がんのステージは3cまで進んだ。ただ、そんな中でも抗がん剤が効いて、現在経過観察にまでなった事はありがたいと思う。去年は病院に行くタイミングが良く分からず、それだけが困った。

79.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

入院制限で、入院や手術が遅れたこと 感染したら治療できなくなるので、必要以上に感染対策に過敏で家族がギスギスしたこと それでも、入院時に家族の面会をさせてもらえたこと

81.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

今年は医療機関の職員さんへの慰労金が無い。今年の方が昨年よりも苦勞されているのに今年はなぜ無くなっているのでしょうか？滋賀県から出してあげるべきです。

82.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

なし

83.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 70歳代 男性

旅行に行けなかった!!

84.関わり無し 県民 60歳代 男性

再発や転移時の入院・治療が受けられるか？不安です。

85.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 70歳代 女性

**人と会うこと、食事に出掛けること等をなるべく控えてるので、寂しい**

86.今はない 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

**病院が個別の相談に乗ってくれたので安心した**

87.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 60歳代 女性

**再発のチェックも含めて、がん検診がもっと身近になれば助かります。全額自費負担で、複数の検査で、家族全員分となると、正直なところ、経済的負担が大きいです。**

89.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

**2020年初めに、父親がガンと診断され、療養を続けてきましたが、今年2021年2月に他界しました。療養中、自宅に戻ってきている時もありましたが、入院中は、新型コロナ感染対策のため、全く付き添いもできず、面会、お見舞いもできず、本人にとって、家族の顔がみられなかったです。それが残念でした。ただ、病院のご配慮もあり、最後の方では、1度面会できたことはよかったですと思います。入院中含め、医療関係者の方々には本当に感謝しております。これからも、新型コロナ感染対策はなされると思いますが、（必要ですし）、患者また家族にとって最後になるかもしれないので、極力、入院中も少しでも会うことができるようになればと思った次第です。**

90.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 40歳代 男性

**仕事の休みが多い**

91.医療関係者 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

実母の手術が決まり、コロナ禍入院しました。コロナ検査して陰性のみ入院。入院中は同居家族でも面会制限がかかったり、洗濯物も看護師通しての受け渡しのみでした。術中も1名だけが院外待機と、切ない入院になりました。でも仕方ありません。以前のようにお見舞いや見守りができず、命をかける手術前夜や、麻酔から目覚めても1人きりは、寂しいだろうなと思い孫の絵を病室に飾れるよう入院前に渡しておきました。その後無事に手術して退院することができました。コロナ禍の繋がりとして、院内は携帯制限あるので、手書きのイラストや寄せ書きやdvd動画手紙はいいかもしれません。面会制限で来客の対応や本人が売店への買物すら部屋出るとどちらまで行かれますか？と職員に聞かれると言っていました。入院患者や家族へのケアに気配りと、消毒作業、コロナ前でも忙しかったのに、より手間がかかる。しかも自分自身もリスクがある中で、笑顔対応が有り難かったです。母の退院後に別病棟でしたがコロナ院内感染のニュースがありました。あんなに予防してやあたのに、と母も驚いてました。目に見えないウイルスなので、どこからか侵入してくる。TVニュースは罹患数字や軽症の言葉ばかりでなく、軽症の症状と現場の様子をもっと伝えるべきと思いました。政府から情報統制あったのか知りませんが、あの現場を目の当たりにしたら、老若男女遊びで県またぎする人減ると思う。医療逼迫を避けて、治療必要な人がたらい回しされず治療受けられるよう、医療職ばかりに負担かけ頼らず、患者とその家族もルールを守らないといけません。

88.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

家にいる時間が長くなり家族と過ごす時間が増えたのはよかった 友人と食事したときマスクを外して長々と大声で話をする人がいて気になり以前は全く気にも留めなかったことに違和感を覚えたりする自分がイヤになった

92.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

寺の檀家の役員をしているが、ここ2年、行事の運営に苦慮してきた。人密を考えると中止にせざるを得ない行事にも理解が得られて、檀家の結束がより固まったようにも感じている。

93.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 60歳代 男性



感染対策を徹底していただき、診療が受けられる体制を取り続けていただいていたことに深く感謝申し上げます。

94.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 40歳代 男性

困ったまではいきませんが、自分の状態(治療内容含めて)は重症化しやすいのか、変わらないのか、主治医の先生は基礎疾患なしで大丈夫ですと仰って頂きましたが、やはり少し不安も感じておりました。あと、患者会が開けない事や、入院時(どんな病気でも)に面会出来ない事は、本当に仕方ないのですが、やはり辛いものですね…。ただ、大変な時期にも関わらず、医療機関の皆様が変わらず親切に対応下さった事には、感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございます。また、誰もが手探りな状況で、緊急的に電話での診療を認められた事やワクチン接種対応等、国や自治体の皆様にも感謝しております。ありがとうございます。

95.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 50歳代 女性

滋賀医大病院にて、コロナ禍でも滞りなく、抗がん剤治療を行ってくれました。大変ありがたい。

96.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 20歳代 男性

家族とさえ面会ができなかったことは、とても寂しいし心細かった。しかし、主治医をはじめ看護師さんや看護助手の方など皆さんとても優しく親切にしてくださいました。本当に有り難く思いました。今振り返ると感謝しかありません。今後も、ずっとと通院しなければなりません、よろしくお願いします。救急搬送で入院した私ですが、本当にありがとうございました。

97.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 60歳代 女性

家族が思いもよらず がんになり手術をします コロナワクチンは2回終わっているので 少しは安心ですが 術後に感染症にかかると 致命的なので とても心配です 幸い医療崩壊になっていない時期なので 手術ができるだけでも ありがたいです

98.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 60歳代 女性

**体に不安があつてもコロナ感染が気になり以前の様に病院に行けない 交通機関(バス、電車、タクシー)も安心して利用出来ないため 車の運転が出来ない者はどうしたら良いのか？**

99.がん患者の家族 滋賀県の病院にかかっている（入院、通院等） 70歳代 女性

**新聞を読む時間が増えたので嬉しくなった。**

100.がん患者の家族 滋賀県に住んでいる 40歳代 女性

**やはり、巣ごもり生活が続くと住む世界が縮まり、大きな視野で見通せなくなり、小さくなる感じがしていました。家庭のことや家族のことを考えるようになり、ある程度、まとまりのある生活をするようになった。**

101.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 60歳代 男性

**小学生の孫がいつコロナに感染するか、心配している。**

102.  
がん患者の家族 妻が県立病院と滋賀医大でがん治療を受けていた。 70歳代 男性

**入院中でも見舞いに行けなかったのがつらい。**

103.がん患者の友人、知人 滋賀県に住んでいる 50歳代 男性

**治療中の病院が コロナ拠点病院で 癌の診断から手術日迄の待ち期間が長かった。又、通院が原因なのでコロナ院内感染の可能性が怖い。入院中、看護師さんの顔や表情がマスクで見えず 看護師さんの区別がつかず名前も覚えられず 距離を感じた。**

104.がん患者本人 滋賀県に住んでいる 60歳代 女性